

何やら内面に志を秘めている美しい私娼「お力」と、 家庭の幸せを取り戻すために努力を惜しまない女房 「お初」の二役を、奥山真佐子が演じ分けます。

「にぎりえ」は、樋口一葉が23歳の6月、川上眉山から「自伝をものし給ふべし」とすすめられて筆を持ち、9月の発売と同時に大きな反響を呼び、一葉の代表作となった。「一葉の全作品中最も奥行きが深い小説である」（岡 保生・小学館・全集樋口一葉）

物語

時は明治28年。文京区小石川の田んぼを埋め立てた新開地に「菊の井」という屋号の「銘酒屋」がありました。「銘酒屋」とは、一見、料理屋に見えるようにカモフラージュすることにより当局のお目こぼしをうけている「女郎屋」のことです。この「菊の井」に、評判の高い「お力」という美しい私娼がおりました。

このお力と、いい仲になったのが布団屋を経営していた源七です。妻も子もある源七は、全ての財産をお力につぎ込み、店も家も何もかもなくして、今では土方人足の手伝いをしながら同じ町内の裏長屋住いとなっています。

源七の女房「お初」は働く気力を失った夫を叱咤激励し、息子「太吉郎」の成長を楽しみに、直向きに内職に励み、家計を支えています。

お力は相変わらず菊の井の一枚看板として働き続け、ある雨の日、この銘酒屋街には珍しい身分の高そうな三十余りの男・結城朝之助と出会うところから舞台は始まります。

演者プロフィール



奥山真佐子
(お力 お初)

甲府市出身。文教大学文芸科卒業後、マキノ雅弘・山田五十鈴・金子信雄・丹阿弥谷津子に師事。一葉ゆかりの法真寺本堂にて「ひとり芝居」開始。樋口一葉作品ひとり芝居連続公演16年。三越劇場公演は「われから」「十三夜」「わかれ道」に続き4年目を迎える。



杵屋邦寿

(音楽構成 三味線演奏)

東京都出身。長唄三味線ライブ「伝の会」を結成し国内外での活動を展開。長唄界の中堅の三味線方として活躍。劇団前進座の歌舞伎、平成中村座(故・勘三郎)、坂東玉三郎らの公演において舞台師をつとめる。ホームページ(<http://www.dennokai.com/kunitoshi/>)



福原幸三郎

(笛演奏)

東京都出身。長唄囃子の笛を福原清彦に師事。福原流家元四世宗家寶山左衛門(人間国宝)より名前を許される。打楽器アンサンブル「打・GAKU-DAN四季」主宰。長唄、郷土芸能など様々なジャンルの音楽演奏、音作りを手がける。

作 樋口一葉
構成・演出 菱野文典

音楽構成 杵屋邦寿
所作指導 花柳奈千穂
照明 須藤 実
着付 金子龍子
結髪 外崎美津子
美粧 佳山みな
舞台監督 高田 潔 (劇団仲間)

協力 東宝舞台株式会社
株式会社フロス
新宿・あいうえお
アトリエ・ビジョナル

日 時：9月8日(日)午後4時開演(午後3時30分開場)

場 所：三越劇場 (日本橋三越本店本館6階)

料 金：6,000円(全席指定・消費税込)

お問合せ：TEL. 03-6454-1955
河佐井プロモーション(平日11時~19時)

メール受付 e-mail: info@okuyama104.com
<http://www.okuyama104.com/> (PC&携帯電話)

TEL. 0120-03-9354 三越劇場 (10時~18時)
<http://www.mitsukoshi.co.jp/t> (PC&携帯電話)

前売開始：8月1日(木) 午前10時より
三越劇場の前売開始日はお電話・インターネットご予約のみ